

行政調査報告書「健康福祉常任委員会」

令和5年7月19日～21日

■神奈川県大和市 『こどもの城の取組について』

大和市は、子育て環境の充実により、まちの魅力を高めることで、子育て世代の定住や市外からの転入を促している。こどもの城は、保育需要の増加などに対応するため、令和3年4月、大和駅に近い旧青少年センター跡地に公私連携型の施設として開設した。送迎ステーション事業など、多様化する保育ニーズに対応するための様々な事業を実施している。



交通網の発達した大和市ならではの取組であった。本市においても今ある資源を有効に活用しつつ、利用者目線に立った今後の事業展開の必要性を感じた。

■東京都豊島区 『視覚障害者向け移動支援アプリ shikAI について』



視覚障害者の移動手段として iPhone 用の移動支援アプリ shikAI を導入。音声ナビゲーションシステムで、駅構内の点字ブロックにQRコードを貼付し、アプリで読み取ることで現在地から目的地まで、カーナビのように経路案内をする。令和3年度から区役所－東池袋駅、そして区役所－中央図書館の運用を開始した。

豊島区では、shikAI だけでなく様々な障害福祉事業に取り組んでおり、これらの事例を参考にしつつ、本市においても柔軟に考えていきたい。

■埼玉県さいたま市 『シルバーeスポーツの取組について』

シルバーeスポーツの取組として、コミュニティの創出、生きがいづくり、健康増進、デジタル機器離れの解消を目的に進めている。施設ごとに、利用者同士や世代間交流など様々なスタイルでeスポーツを開催している。

参加者の固定化など、今後の事業の見直し等を含め、本市でも同様の課題認識を持っていることもあり、参考としたいところが多くある調査となった。

